

研究課題（テーマ）

「入院患者における転倒・転落に対する睡眠薬の影響についての調査」

- 1 研究機関** 市立千歳市民病院薬局薬剤科、同医療安全管理室、認知症ケア委員会
- 2 研究責任者** 薬局薬剤科 瀧澤昌司
- 共同研究者** 薬局薬剤科 菅原 稔、小松 修一
医療安全管理室 足立 珠美、新藤 純理
認知症ケア委員会 大館 かおり、楠 貴之
- 3 研究目的** ベンゾジアゼピン受容体作動薬はベンゾジアゼピン（BZ）系薬、非ベンゾジアゼピン（非BZ）系薬に分類され、BZ系薬は筋弛緩作用がありバランス障害を招きやすく転倒・転落の要因になりやすい。近年は非BZ系薬に加えて筋弛緩作用を生じにくいとされるGABA受容体を介さないメラトニン受容体作動薬（MRA）、オレキシン受容体拮抗薬（ORB）が睡眠治療の主流となっており、BZ系薬以外の薬剤への切り替えが推奨されている。そこで、2023年4～3月を調査期間として睡眠薬が処方された入院患者における睡眠薬の使用実態（処方量、服用件数）と転倒・転落率（転倒・転落患者数/睡眠薬処方患者数×100）を算出し、転倒・転落に対する睡眠薬の影響を後ろ向きに調査することで転倒・転落のリスク低減を目的とした適正な睡眠薬の定数配置薬に繋げる。

4 研究の方法

(1)研究対象者

2023年4月1日から2024年3月31日まで、市立千歳市民病院に入院中で睡眠薬が処方された方を対象とします。

(2)研究実施期間

本研究の実施許可日～2025年7月31日（予定）まで

(3)研究方法（使用する試料、情報）

電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。

転倒・転落の件数、内容についてはインシデント報告システム「CLIP」を用いて情報収集します。

睡眠薬の処方量、服用件数はHOPE/DWH-GXを用いて情報収集します。

利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報には削除致します。

5 外部への試料・情報提供

本研究で用いる試料・情報を他の研究機関等に提供することはありません。

6 研究成果について

本研究の研究成果は、学会等で発表を予定しておりますが、氏名や住所等の患者さまを特定できる個人情報は利用しません。

7 利益相反について

本研究に関して、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

8 問い合わせ・連絡先

本研究についてご質問がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。また、あなたの試料・情報が本研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象と

はいたしませんので、下記の担当者にお申し出ください。試料や情報の使用を断られても、患者さんに不利益が生じることはありません。なお、研究参加拒否の申出が、既に情報の解析や研究発表等の後となり、当該措置が困難な場合もございますので、ご了承をお願いいたします。

市立千歳市民病院薬局薬剤科

研究担当者 薬局薬剤科薬品管理係長 瀧澤 昌司

〒066-8550 北海道千歳市北光2丁目1-1

連絡先 0123-24-3000（平日：9時～17時）